

関係者各位

## スーパー耐久レース Rd.5 モビリティリゾートもてぎ戦報告

### 25号車 raffinée 日産メカニックチャレンジ Z 激闘の末初優勝、26号車も3位 W 表彰台獲得

9月2日～3日、スーパー耐久 2023 Rd.5 モビリティリゾートもてぎ 5時間レースが開催され、8クラス45台が参戦し、TEAM ZEROONE からは25号車、26号車2台揃っての参加となった。日産メカニックチャレンジとしての活動は、日産栃木自動車大学の学生が10名、日産販売会社のテクニカルスタッフ(TS)は4名が参加し、レースに関わった。

#### ■ 予選

9/2(土)コースコンディション：ドライ

25号車「raffinée 日産メカニックチャレンジ Z」はAドライバーに山口智英選手、Bドライバーに今大会よりS耐に復帰した松田次生選手を起用。Cドライバーには佐藤公哉選手、Dドライバーには、藤原大暉選手という布陣でもてぎ戦に臨んだ。

予選では25号車「raffinée 日産メカニックチャレンジ Z」はAドライバー山口選手の好走でST-3クラス2位、続くBドライバー松田選手のスーパーラップで2分6秒台をマーク、合算タイムで25号車初のPPを獲得した。

また、26号車「raffinée 日産メカニックチャレンジ Z GT4」はニスモとの共同開発もすすみ、戦闘力向上に様々なトライを試みたが、ストップ&ゴーのコースレイアウトである本コースへの合わせこみがやや厳しい状態での予選となり、Aドライバー大塚選手、Bドライバー富田選手の合算タイムでST-Zクラス5位となった。

#### ■ 決勝 (5時間レース)

9/3(日)コースコンディション：ドライ

8クラス45台により5時間レースが争われた。決勝日は雨予報もあったが、レースウィーク通して一度も雨は降らず決勝レースはドライコンディションとなった。

ポールポジションスタートの25号車スタートドライバーは佐藤選手、スタート後快調にラップを重ねたが、後続を走る16号車との長いバトルの後、5時間のレース時間を考慮しタイヤの摩耗を押さえ良いコンディションでドライバー交代すべく16号車を先行させた。そして予定周回数でAドライバー山口選手に交代。的確なピット作業と山口選手の安定した好タイムの走りでポジションキープし、3番手の松田次生選手に交代した。松田選手は日産のスーパーGT500を代表する選手の走りを見せ、ピットタイミングで先行する15号車を見事オーバーテイクしトップ浮上。その後、チームはタイヤの摩耗状態を確認しタイヤ無交換を選択。最終スタントを担う藤原選手にバトンタッチ。藤原選手は順調に周回を重ねるが、残り3分を切ったところで、後続の15号車とS字コーナーで接触してしまい、コースアウト。冷静にコースに

復帰し、15号車と17秒差の2位でチェッカーを受けた。その後、15号車の接触行為に対し、30秒のペナルティ加算が裁定され、25号車「raffinée 日産メカニックチャレンジ Z」はチーム初優勝となった。一方、26号車はスタートドライバーの名取選手がスタート直後、先行する2台をオーバーテイクし3位浮上。安定した走行で周回を重ねたが、レース開始50分V字コーナーで予選7位の後続の885号車に先行されてしまい、4位にポジションダウン。その後、周回を重ね、戦略に沿って予定周回数でピットイン。Aドライバー大塚選手にドライバーチェンジ、大塚選手もポジションキープで篠原選手にバトンを繋いだ。篠原選手も安定した走りでもポジションキープ、残り70分のところで最終ステントを担う富田選手にドライバー交代。レース終盤にST-Z クラストップを走る22号車にトラブルが発生し26号車はポジションが上がり3位表彰台を獲得した。

25号車の初優勝、26号車の3位表彰台獲得は、日産メカニックチャレンジとして参加したTSと日産自動車大学校学生にとって、レースウィークを通して多くの実作業に携わったことが強い印象と素晴らしい経験をもたらした。25号車はTEAM ZEROONE チーム発足後初となるポルトウウィン(25号車としても初の優勝)、26号車も3位表彰台となり、2台共に表彰台を獲得できチームにとっても大変記念すべき結果となった。

#### ■ 松田選手コメント



今年の開幕戦以来のスーパー耐久でしたが無事にポルトウウィンを達成することができました。

25号車はマニュアル車で右足ブレーキなので、足の状態の不安も少しありましたが、問題なく走れて本当に良かったです。またAドライバーの山口選手は荒選手のサポートもしっかりで順応性も早く、予選では驚くようなタイムでPPを獲得することができ決勝の走りも素晴らしかったです。また佐藤選手のスタート直後の頑張りも良かったし、アンカー藤原選手はタイヤが厳しい中、本当に頑張ってくれました。実は僕のスーパー耐久優勝は2001年以来ですが、今年TEAM ZEROONE に加入して優勝できたことは本当に嬉しいです、勝つためにチームがマシンを仕上げてくれたことに感謝です。

これからも更に強いチームになるためにチーム一丸となって気を引き締めて頑張りますので、引き続き応援よろしくお願いします。

## ■日産メカニックチャレンジ活動

今回は4名のTS(旭川日産、埼玉日産、富山日産、神奈川日産から各1名)と日産栃木自動車大学の学生10名が参加し、ピット作業を担当。ピット設営から撤収までチームの一員として参加。学生については、初めてS耐に参加する2年生5名とS耐の事前・事後整備をカリキュラムに入れ、授業として取り組むスポーツメカニクス科の学生5名が担当した。2年生については当初は緊張感から動きがやや鈍かったが、「君たちは研修ではなくチームの一員として責任を持って取り組んで欲しい」という監督の鼓舞に応え、かなり積極的な動きを見せるようになった。スポーツメカニクス科の学生は、25号車、26号車の整備に長く関わっているため、自信を持ってメンテナンスに取り組んでいた。4名のTSはとてもモチベーションが高く、プロメカニックの中で連携を取った行動が見て取れた。「レーシングカーのシビアなセッティングは市販車とは全く異なるが、市販車と共通する事も多く勉強になった」「店舗では一人で1台を担当することが多いが、レースは1台を複数のメカで対応する。自分が何をやらねばならないか、常にアンテナを張っていないとダメ」などのコメントがあり、その真剣さを伺うことが出来た。また、「マックツール特別講習」「ドライバーとの交流会」などを通じ、メンテナンス以外でのメカニックチャレンジプログラムの体験も実現し、知識の幅を広げることが出来た。

1. ピット活動
2. チームドライバーとの交流会
3. マックメカニクスツールズ特別講習
4. 他チーム見学：230号車 NISMOテストチーム&NISMO GT500 松村総監督激励講話



## ■ゲストエリア

もてぎ戦では、ピット裏テント(約20名収容)に加え、第2パドックに約60名を収容可能な冷房完備の部屋を準備。述べ70名以上のお客さまに会場頂いた。暑い時期の開催であったため、お客さまには涼しい部屋でゆっくりと観戦頂くと同時に、パートナー企業のマックツールの工具展示、日産・NISMO

グッズ展示を行い、商品の魅力を来場されたお客様にアピールすることが出来た。また、決勝日にはメインパートナーであるオリエンタルバイオが設定する「留学生奨学金受給者」5名がゲストエリアを訪れ、オリエンタルバイオ株式会社 渡邊会長、株式会社ラフィーネインターナショナル 小川社長との懇談会が行われた。留学生は、自動車エンジニアになりたいという`熱い想いを一生懸命日本語で語っていた。また、アルバイトに追われる日常生活の苦勞も切実で、奨学金への感謝の気持ちが述べられていた。



#### ■ 次戦に向けて

今大会は、25号車、26号車揃って表彰台を獲得できたチームとしても非常に喜ばしい結果となった。25号車は前戦まで抱えていたトラブルも解消され、安定した走りでゴールまで完走する事が出来た。次戦も確実に完走することを目標に取り組んでいく。26号車はスープラと比較して安定した速さが足りない部分もあったが、ドライバーはじめメカニックもミスなく繋げることで、表彰台を獲得できたのは良い結果だった。次戦は岡山戦となるが、引き続き NISMO と開発を重ね、強いクルマ作りを行ってきたい。

以上

2023.9.6  
TEAM ZEROONE